

時間学特別講演会

不可避の破局と共存する — 一時折起きる超巨大災害

2016年11月19日(土) 13時00分～16時30分

山口大学吉田キャンパス 大学会館大ホール

〈主催〉

山口大学時間学研究所

〈共催〉

山口大学理学部・日本時間学会

〈後援〉

山口市

【2016年熊本地震はなぜ起こったのか？ ～地質学的視点から～】

大橋 聖和 先生 (山口大学大学院創成科学研究科・講師)



2008年3月

新潟大学大学院自然科学研究科 修士課程修了.

2011年3月

広島大学大学院理学研究科 博士課程修了.

2011年3月～2014年10月

千葉大学大学院理学研究科 博士研究員.

2014年11月～

現職.

専門分野は構造地質学, 地震地質学

【統一国家日本を生んだ阿蘇地変】

石黒 耀 先生（医師・小説家）

1954年広島県に生まれ、小学校から関西、大学は宮崎大学医学部を卒業。

中学から大学まで生物部員で、大学在籍中に九州の生物を調べて回るうちに、火山と生物の関心に興味を持つ。現在は大阪で医療活動に従事。



<代表作>

加久藤火山の巨大噴火を描いたデビュー小説「死都日本」で講談社メフィスト賞。東海地震をテーマにした「震災列島」で吉川英治文学新人賞ノミネート、日本地質学会表彰、宮沢賢治奨励賞。

<講演梗概>

日本史に「謎の4世紀」、あるいは「空白の4世紀」という言葉があります。日本（大和）という国は4世紀に成立したと考えられるのですが、その前の3世紀は事情を伝えるしっかりした書物があるのに、4世紀となると信憑性の低い神話の記述しか存在しないのです。それも、ずっと後の8世紀に編纂されたものですから、正確さは期待できないというのが一般的な見方です。

その信憑性の低い神話を「記紀神話」と呼びますが、高天原という神界の神様達が出雲を併合し、更に九州の日向に孫神を降臨させて平定し、更には近畿へ侵攻して、大戦争の末に大和朝廷をうち立てたという破天荒な内容です。太平洋戦争までは正史とされ、大人も子供も信じ込まされた建国神話ですが、今ではファンタジー扱いされて、神様方は子供のゲームのキャラクターと化しています。

私も古代人の妄想文学だと馬鹿にしていた一人だったのですが、学生時代に遊んだ九州の火山の思い出にふけるうちに、ひょっとすると意外に正確な、1万年以上前からの噴火災害記録かもしれないと気付きました。素朴な自然神信仰だった超古代に、天変地異を神の行為として描くのは当たり前のことでした。ユダヤ教の聖典である旧約聖書には、そういう記述が多く出てきます。しかし、1万年以上前の記録となると、世界的に見ても大変珍しく、しかも、その正確さを証明する地学的な証拠が現在も普通に見られる点で、九州の神話は格別な価値があると考えられました。

今回の講演では、古代神話を裏付ける証拠の数々を、時間の限り御説明します。そして、もし余裕があれば、そういう地学的な解釈が導く我が国の驚愕の建国過程についても触れたいと思っています。